

授業科目名称：調剤学(実践的教育科目)

授業コード：41028

授業科目英文名称：Dispensing Pharmacy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4	1.5	必修
担当教員			
大久保 伸哉、中島 健輔（実務経験のある教員）			
展開方法	講義		
ナンバリング	N4F408		
添付ファイル			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・処方せん受付から服薬指導までの一連の調剤における用語を理解し、実施事項および実施上の注意点を説明できる。 ・医薬品の適正使用において果たすべき薬剤師の役割を調剤と関連づけて説明できる。 ・社会の医療ニーズを把握し、薬剤師としての対応策を提案することができる。	定期試験	65%
情報収集、分析力	・「調剤」を理解するとともに、高度化・複雑化する社会の医療ニーズに薬剤師として対応できる。	定期試験 課題レポート	5% 20%
コミュニケーション力			
協働・課題解決力			
多様性理解力	・患者に多様性があることを理解し、適切な配慮をすることができる。	課題レポート 受講態度	5% 5%
出席		受験要件	
合計		100%	

授業のねらい	薬剤師法第一条に謳われている薬剤師の任務のひとつ「調剤」を理解するとともに、高度化・複雑化する社会の医療ニーズに薬剤師として対応し、医療チームの一員として医薬品の適正使用における役割を果たすために必要な基本的知識を修得する。					
アクティブラーニングの類型	①②③⑩					
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	・ 定期試験の成績を70%、課題レポートの成績を25%、受講態度を5%として評価する。 ・ 定期試験は、講義内容を出題範囲とした多肢選択式の筆記試験とし、調剤の基本概念や医療用語の理解を前提に医薬品の適正使用における調剤の意義および薬剤師の役割を理解しているかを問う。 ・ 課題レポートは、課題開示から2週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。加えて、指定条件を満たさない場合は、減点の対象とする。 ・ 受講態度は、講義中に出題される質問等に対して、ポートフォリオやresponに回答した内容で評価する。 ・ 授業の理解度をポートフォリオを利用し確認を行い、授業中にフィードバックを行う。					
授業概要	病院及び薬局薬剤師としての実務経験を有する教員が、医薬品の適正使用のために、薬剤師が実施する幅広い医療薬剤業務の理解に主眼を置き、講義を進める。薬剤師としての実務経験及び講義に関係する最新のトピックスを講義中に紹介する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、112.5分とする。					
教科書・参考書・指定図書	教科書：Crosslink 薬学テキスト 調剤学（鈴木貴明、メジカルビュー社） 参考書： スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤（東京化学同人） スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践（東京化学同人） スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画（東京化学同人） 指定図書：Crosslink 薬学テキスト 調剤学（鈴木貴明、メジカルビュー社）					
授業外における学修及び学生に期待すること	薬理学、薬剤学、製剤学、医薬品情報論、薬事関係法規等の科目と関連づけることによって薬物療法的一端を担う「調剤」を深く理解し、医療現場で応用できる力を身につける。薬剤師は生涯にわたって学び続けなければならないことを理解し、医薬に関する報道に関心を持つ。					
授業計画	回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号	担当教員
	1	内用剤・外用剤の調剤（1）	薬袋・薬札の作成、内用剤・外用剤の計数調剤	経口剤の剤形を調べておく	864	中島
	2	内用剤・外用剤の調剤（2）	内用剤の計量調剤、工夫を要する調剤、経腸栄養剤	内用剤の処方例を調べておく	864	中島

3	疑義照会	医療用医薬品添付文書の見方、疑義照会の意義と法的根拠	医療用医薬品添付文書の記載事項を調べておく	910	中島
4	工夫を要する調剤ならびに医療用語	工夫を要する調剤の具体例について学ぶ、医療用語およびその略語を理解する	工夫を要する調剤の具体例ならびに医療用語の略語について調べておく	898	中島
5	調剤学概論	医療人としての薬剤師の役割、生涯研鑽、処方せんに基づく調剤	生涯研鑽の意味について考えておく	10、64、65、895、896、897、915、916、917、918、928	大久保
6	調剤業務の進め方	処方せんに基づく調剤、薬剤交付・服薬指導、薬歴管理	保険処方せんの様式を調べておく	37、802、896、915、916、917、918、928、945	大久保
7	注射剤・輸液の調剤（1）	注射剤の種類・特徴、注射剤処方せん、注射剤の計数調剤	注射剤の種類と特徴を調べておく	866、1002	大久保
8	注射剤・輸液の調剤（2）	注射剤の配合変化、注射剤の無菌調製	配合変化の例を調べておく	929	大久保
9	注射剤・輸液の調剤（3）	輸液の種類、栄養輸液の種類と適応、電解質濃度の調整（1）	輸液の種類と適応を調べておく	1002、1003	大久保
10	注射剤・輸液の調剤（4）	輸液の種類、栄養輸液の種類と適応、電解質濃度の調整（2）	輸液の種類と適応を調べておく	1002、1003	大久保
11	抗悪性腫瘍薬の調剤	抗悪性腫瘍薬の調剤	抗悪性腫瘍薬の調剤時の注意点を調べておく	897、1003	大久保
12	服薬指導、調剤録、薬歴管理	服薬指導の意義・留意点・テクニック、患者からの情報収集と患者への情報提供、POSとSOAP	POSとSOAPについて調べておく	37、799、800、802、896、945	大久保
13	安全管理	処方から投薬までの過程で生じやすい過誤と対策	処方から投薬までの過程で生じやすい過誤を調べておく	18、19、929、932、972、974、1001	大久保
14	ポリファーマシー	超高齢社会における調剤関連の課題と対応策	ポリファーマシーについて調べておく	896、1001	大久保
15	薬剤師の専門性を活かす	チーム医療、多職種連携、在宅医療	薬剤師の専門性が活かせる状況を考察しておく	53、54、1026、1027、1028、1035、1036、1040、1041	大久保
16	定期試験				
	★注意事項	上記の第1回～第15回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。 ※到達目標番号と到達目標の対応は、大学HP掲載のコアカリSB0番号／項目対応表を参照してください。			